



# パレスチナ フェスタの報告



会場には、パレスチナの伝統衣装も展示。



「エシカルファッションとパレスチナ刺繍」というテーマのディスカッション。ユニテッドアローズの栗野宏文さんは、ファッション業界の内側から、使い捨てファッションへの疑問から生まれたエシカルファッションの意義について提起。レバノンの刺繍製作団体「イナージュ」のレナ・イドリスさんは、パレスチナ刺繍とそれを作っている女性たちを紹介。ファッションと社会問題、伝統技術と継承などの議論は、初めて聞いた、新しい視点を得たと、特に若い世代に特に好評でした。



シンポジウム「パレスチナ支援を語ろう」。パレスチナ子どものキャンペーンの現地支援活動の報告の後、モデレータに前日中東から帰国したばかりのNHK解説委員の出川展恒さんを迎えてシンポジウムへ。出川さんは米大使館のエルサレム移転等の最新情報にも言及。ついで、国連パレスチナ救済事業機関(UNRWA)の元上級渉外官の田中理さんが、パレスチナ問題の発生と経緯、国連の役割を紹介。そして、やはり中東から帰国したばかりの外務省の岡浩中東アフリカ局長は、日本政府の対パレスチナ支援実績を紹介。ディスカッションには当会の職員も加わり、国連、日本政府、NGOそれぞれの立場から、現地で本当に必要な支援について、日本の支援の長所と限界等、率直な意見交換がありました。



パレスチナの民族舞踊のダブケ。日本人と在日外国人の女性たちの混在チームが、元気よく踊ってくれました。会場の参加者も飛び入りで踊り、最近の厳しく暗いムードを吹き飛ばす元気でした。



高橋和夫さん(前放送大学教授)の講演「パレスチナと世界の行方」。トランプ政権誕生による米国内政治と中東・パレスチナの関係性。また今後の展望について、分かりやすく歯切れのよいお話がとても好評でした。



ファルハ・アンサンブルのライブ。ワード常味裕司さん、パーカッション和田啓さん、ベース吉野弘志さん、歌松本泰子さんがアラブの古典曲などを演奏。息の合ったアンサンブルに会場も盛り上がりました。

5月5日と6日、横浜市の赤レンガ倉庫1号館3階で、パレスチナ・フェスタを開催しました。連休中、また晴天に恵まれ、老若男女、在日のアラブ人の方たちなど二日間で800人以上が来場されました。今回のイベントは、パレスチナ人が難民となって70年を迎える今年、その苦難と悲しみだけでなく、難民となっても逞しく生き抜いてきたパレスチナ人の強さ。文化や伝統、暮らしの持つ精神的な豊かさを知ってもらいたいと企画しました。



受付から会場までの廊下には、古居みずえさんが撮影したパレスチナの女性と生活の写真を展示しました。



会場には、パレスチナの子どもの本や通学セットなどを展示したほか、来場した子どもたちが楽しめるスペースも用意しました。また、香辛料など、現地の市場の様子も再現しました。



駐日パレスチナ代表部 大使夫人のマアリ・シアームさんから、日本の皆さんにお礼の挨拶がありました。5日には河野外務大臣も飛び入りで来場し、刺繍のクッションをお買い上げ。



ミュージシャンの和田啓さんによるアラブ音楽のワークショップ。子どもも大人もとても楽しみました。



パレスチナ刺繍のモチーフの世界を、臼杵良子さんが紹介。その後、実際に刺繍してみるワークショップに多くの方が参加して挑戦しました。



パレスチナのおもてなし、をアラブ料理研究家の加藤貴美恵さんが紹介。食材や料理が紹介。



パレスチナの子どもの描いた絵画や、子どもの作ったアニメを見せながら、パレスチナのことを日本の子どもにも理解してもらい、親子参加のワークショップ。参加した中学生たちが新聞に投稿した感想は二紙に掲載されました。



刺繍製品や木工品のほか、オリーブオイル、石鹸、ビールやワインなどのパレスチナ産品も販売されました。



在日パレスチナ人シェフによる料理の提供。初日は道路事情で料理の到着が遅れ、食べ損ねた方が多くおられたこととお詫びいたします。

このイベントには、国連開発計画 (UNDP) や駐日パレスチナ代表部の協力をいただきました。また多忙中、手弁当で参加いただいた出演者や講演者の皆様、展示や販売にご協力いただいたNGOやショップなどの皆様、賛同金を寄付いただいた皆様、事前の準備から当日まで力を貸して下さった支援者とボランティアの皆様、改めて御礼を申し上げます。

アンケートでは多くの方から、楽しかった、友達や家族を誘いやすい企画でよかったという反応をいただきました。他方、お祭り騒ぎでよいのかという辛口のご意見もありました。しかし「可哀想な難民たち」というネガティブなレッテルを嫌い、辛い生活だからこそユーモアを忘れず、未来をあきらめない現地パレスチナの人たちからは、パレスチナの生活や文化を紹介するフェスタの開催に、共感と感謝が寄せられています。

なお、今回の展示の一部を、全国各地でも展示できるようセットとして準備中です。各地での展示にご協力いただける方は、事務局までご連絡ください。

